



恋するふたりのいい関係

デート DV

大学2年のA美さんと1年先輩のB雄さんは、交際を始めて半年。B雄さんはめったに手に入らないサッカーの試合のチケットを急に友人から譲ってもらえることになり、上機嫌でA美さんを誘った。「再来週の日曜日、空いてる？空いてるよね。Cチームの試合のチケットがやっと手に入ったんだよ」「えー、すごい！でも、その日バイトだよ」普段は日曜を空けているA美さんだったが、バイト先から急に変更を依頼され、承諾した矢先だった。「だって、日曜日はいつもデートしてるじゃないか！」急に顔色を変えたB雄さんが声を荒げた。「それはそうだけど…、でも…」「今すぐ、バイト先に電話して、変えてもらってよ」「急にそんなこと言われたって…」「できないってわけ？僕とバイトとどっちが大事なの？」「そんなのB雄に決まっているじゃない」「だったら、すぐに電話しろよ」「でも…」口ごもっているA美さんからいきなり携帯電話を奪い取り、B雄さんは電話をかけた…。

よくありそうな恋人たちの会話と思ったかもしれませんが、もしかして、あなたも同じような経験をしたことがあるかも？でも、ちょっと待ってください。おかしいと感じた点はありませんでしたか？この展開をA美さんは納得していたのでしょうか？B雄さんのとった態度は強引ではなかったのでしょうか？それとも、恋人だったら、A美さんとB雄さんの態度は当然と思いませんか？

◆恋人間のイメージ

最近、テレビなどの影響もあり「デートDV（DV：ドメスティック・バイオレンス）」という言葉が聞かれるようになりました。デートという言葉から「デート中に起きる暴力」と思っている人もいるかもしれません。また、DVという言葉から「殴る、蹴るなどの身体的暴力」をイメージするかもしれません。そのようなイメージからしたら、A美さんとB雄さんの会話は、何の問題もないようにみえるでしょう。

しかし、「デートDV」とは、身体的な暴力だけでなく、言葉や態度による精神的暴力、さらに広く、恋愛中のふたりの関係そのものが対等でない場合におこる問題を問うものなのです。

たとえば、あなたは、恋人との間で、次のような態度を取られた（取った）ことはありますか？また、そのような態度は恋人間では許されることだと思いますか？チェックしてみてください。

- 殴られる、蹴られる、ぶたれる、髪を引っ張られる（殴る、蹴るなど）
- 殴るふりをされたり、軽く叩いたり蹴ったりされる（する）
- バカとかグズなど、傷つく呼び方をされる（する）
- 相手の予定を優先させないと無視されたり、不機嫌な態度をとられる（自分の予定を優先できないと相手は無視／不機嫌になる）

- 意見を聞かれずに、相手に自分勝手に物事や予定を決められてしまう（相手の意見を聞かずに自分勝手に決める）
- 携帯電話の着信履歴やメールをチェックされる（する）
- 携帯メールで常に行動の報告や返信するよう要求される（する）
- 勝手に携帯電話の番号やアドレスを消される（消す）
- 無理やり性的な行為をされる（する）
- 避妊に協力してくれない（しない）
- 自分の都合や気持ちより、相手の予定や機嫌を優先する（自分が優先されて当然と思う）

もし、ひとつでもチェックがついたなら、あなたは、恋愛関係にある相手との関わり方についてもう一度を見直し、「デートDV」について知る必要があるといえます。

◆デートDVとは？

では、「デートDV」とは、どのようなことでしょうか？ それは、恋愛関係にある二者間におこる支配と被支配関係、虐待状況のことです。英語では、「dating violence」（デート暴力）や「domestic violence in teenage relationship」（10代の若者間のDV）などと言われています。単に、デート時に起こる暴力や身体的な暴力ではありません。恋愛中のふたりの関わり方すべてにわたり、相手を支配・コントロールする関係を指します。デートDVは、恋愛関係にあれば、高校生が大学生、社会人を問いません。さらに、恋愛関係にあれば、男女間だけにおこることでもないので。

最初は、意見を聞かれず勝手に予定を決められても、「相手に合わせる」ぐらいで、「たいしたことではない」「恋人どうしなら当然」と思われるかもしれません。しかし、そうしたことが繰り返されると、決定する側とそれに従う側の力関係が固定していきます。そして、する側は、相手が「自分に従わない」「自分の意に沿わない」となると、殴る、蹴る、こすくなどの身体的暴力をふるったり、相手を罵倒する、無視するなど、言葉や態度で相手を傷つけても「当然」と

思っていきます。一方、される側も、「殴られたり、無視されるのはいつものこと」「嫌だけど相手を好きだから」とそうした関係を受け入れていってしまいます。その結果、ふたりの間には、一方が他方を力でコントロールする支配・被支配の関係ができていくのです。それが「デートDV」と呼ばれる構造です。

「デートDV」が続くと、される側は相手が怖くなり、自分の感情や価値観がわからなくなっていくです。次第に自分で何かを「決定する」ことができなくなり、「自分はたいしたことがない人間」と自信も薄れてきます。そして、それらが長期にわたり、気分の落ち込みや不眠、抑うつ状態が起こります。また、怪我をしたり、望まない妊娠でからだを傷つけることもあります。

「デートDV」にあっている友人を見たら、「別れればいいじゃないか」と思うかもしれません。しかし、支配と被支配の関係が固定化すると、被害者はなかなかその関係から離れる事ができません。被害を受けている側には次のような気持ちが起こります。「相手を好きだから。恋人を失うと淋しいし、一人になるのはいや」「逆らわず自分が我慢していれば相手はやさしいし、暴力はふるわない」「私にも悪いところがある。相手を怒らせる自分が悪い」「暴力をふるった後はやさしくなる」「相手には生い立ちなどでかわいそうなところがある。相手を支えられるのは自分だけ」などです。

実際に、力でコントロールして暴力をふるった側は、その後、とても優しく接することが多く、された側は、「暴力をふるう人が、自分に優しくしてくれる人が」の間で混乱してしまうのです。とくに、女性の方が暴力をふるう相手を肯定的に受け止めようとする傾向があり、離れにくい状況が生まれます。

◆恋愛経験のある女性の2人に1人が「デートDV」経験者

2008年の中大ハラスメント実態調査によると、「交際相手から身体的・精神的暴力を受けたことがあるか」の問いに、学部学生女子の5.3%、通教生女子の8.2%が「ある」と答えて

います。男子（学部学生1.5%、通教生2.1%）も少ないものの被害にあったことがあると答えています。また、2008年に内閣府が実施した調査によると、10～20代で「デートDV」を経験した女性は13.6%で、そのうち2割強が命の危険を感じたと答えています。

さらに、言葉によるけなしや罵倒・無視、メールのチェック、相手の交友関係の制限なども含めると、交際経験のある女子の2人に1人、男性の4人に1人が「デートDV」を経験しているとのデータもあります（「デートDVに関する調査報告書」名古屋市男女平等参画推進センター 2009年）

中大のハラスメントの相談室にも、「デートDV」の相談が寄せられます。しかし、その多くが、かなり激しい身体的暴力をふるわれて、友人の助言によってようやく相談したという例なのです。殴られて骨折をしても「自分がデートDVを受けているとは気付かなかった」と話す被害者もいます。ですが、「恋人なら当然のこと」「相手が好きだから（その位許せる）」などの気持ちから、なかなか友人にも相談できず、「デートDV」が本当に深刻な状況になって初めて、自分の悩みを打ち明けるのです。

ですから、もし、あなたが、友人から「デートDV」についての相談を受けたら、「なぜ、別れないの?」と相手を責めるのではなく、一人で悩まず、相談できる場所があることを伝えてください。

中央大学のハラスメント防止啓発支援室の相

談室では、「デートDV」の相談も受けています。電話 042-674-3507 メールでも相談できます。ホームページの問い合わせフォームでお送りくださいhttp://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/community/g02_j.html

互いを尊重して、対等な関係ができれば、「デートDV」はおこりません。自分の気持ちを大切にすることは、相手の気持ちも大切にすること。恋愛を通して、人間関係がより深く、より豊かになっていくことを望んでいます。

ハラスメント防止啓発支援室

カウンセラー 田村伴子

<デートDV についての本>

『デートDVと恋愛』伊田広行著 大月書店 2010年

『デートDV- 愛が暴力か、見抜く力があなたを救う』遠藤智子著 NPO法人全国女性シェルターネットワーク協力 ベストセラーズ 2007年

『傷ついたあなたへ-わたしがわたしを大切にすること』DVトラウマからの回復ワークブック』レジリエンス著 梨の木社 2010年
『それってデートDV!?』『季刊セクシュアリティ 32号』2007年 エイデル研究所

『それ、恋愛じゃなくてDVです』瀧田信之著 WAVE出版 2009年

『デートレイプってなに?…知りあいからの性的暴力』アンドレア・パロット著 富永星訳 大月書店 2005年



中大のハラスメント防止啓発パンフレット